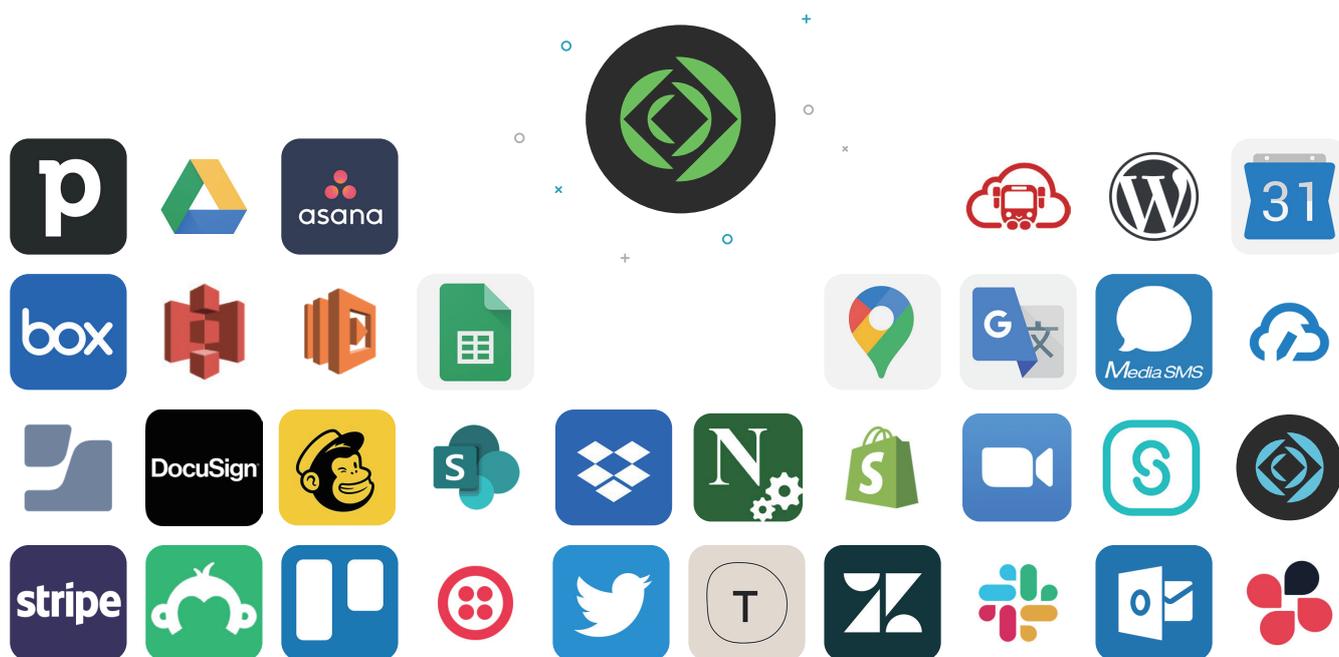




Claris Connect

～連携と自動化をもっと自由に～



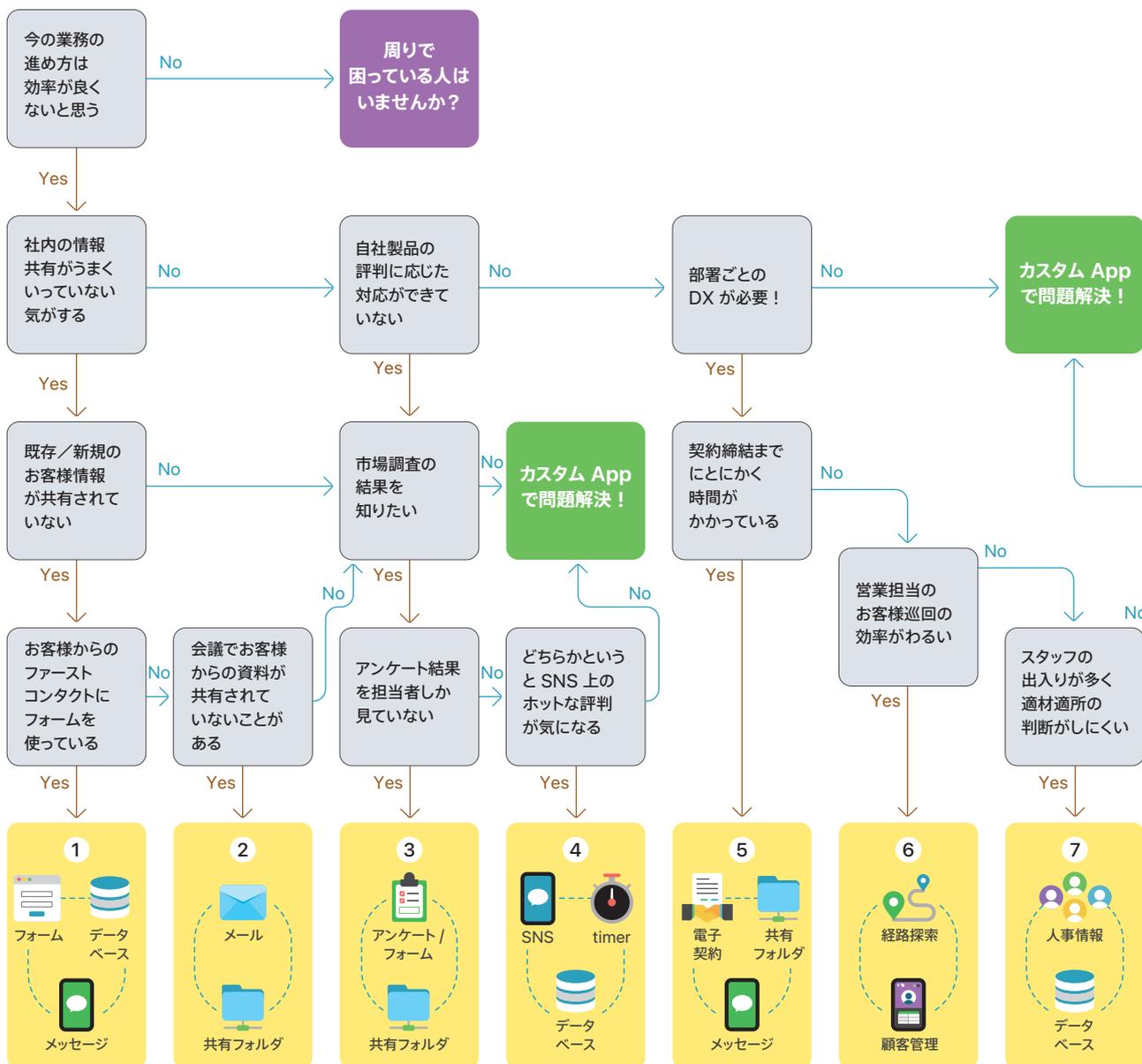
Jan. 2023



今の業務は効率的ですか

当たり前を感じる日常業務ですが、よく見ると様々な非効率が潜んでいませんか？

START



複数サービスを上手に使うと効率アップできるかも!?!

具体例は p.14-15 の対応する番号をチェック!

近年クラウド上に様々な業務サービスが登場していますが、それらの組み合わせで様々な効率化ができそうですね。

しかし、落とし穴もあります。続いて、クラウドサービスを次々に取り入れて思わぬ事態に陥り、それを解決した事例をご紹介します。

"システムのサイロ化問題" はいかにして解消されたのか



株式会社ザ・スポーツコネクションが運営する「Aqua sports & spa」

会員制フィットネスクラブを運営する株式会社ザ・スポーツコネクション（以下「スポーツコネクション」）は、これまでIT活用を積極的に進めてきました。特に、クラウドが普及し、以前なら大きな会社でなければ使えないようなシステムが手軽に低料金で使えるようになったことから、顧客向けシステム、業務システム、さらにはマネジメント系のビジネスシステムまで、旺盛に導入を進めてきています。

しかし、さまざまなクラウドサービスを次々導入し、業務に適用していく中で、同社代表取締役の除野健男氏はあることに気づいたそうです。

「どのサービスも便利なのですが、基本的にはパッケージなので店舗特有の業務のかゆいところには手が届かず、一つのサービスですべてをカバーできるものではありませんでした。『すでに導入したサービスだけではこの機能はカバーできないから、あのサービスも使ってみよう』ということを繰り返しているうちに、だんだんと『クラウドの沼』にはまっていきました。」（除野氏）

連携のとれない複数のクラウドサービスを次々に導入することで、システムの「サイロ化」(*)に陥ってしまったのです。そのため、例えば会員情報がアップデートされているシステムとされていないシステムが混在するといった事態が逐一発生し、それを解消するためにマスターデータを手入力で同期する必要が出てきていました。

そこで、スポーツコネクションではまず、ローコード開発プラットフォーム Claris® FileMaker Pro™ を導入し、新しく「トレーニング管理システム」を開発会社（Claris パートナー）と二人三脚で作りました。このシステムは、トレーニングを始める前に会員の身体状態を診断し、一人ひとりに合わせたメニューを作成、さらに実施したトレーニングの記録をとっていくシステムです。API 連携機能で体組成計データと連携しています。

(*) サイロ化：システムや業務プロセスなどが他のアプリケーションや他事業部や部門との連携を持たずに自己完結し、それぞれ孤立してしまう状態

そして、このシステムを土台として入退館管理システムと連携させることにより、会員がジムを訪れた記録を取り込んで顧客の解像度を高められるようにしました。さらに、レジツールなどの業務システムや、人事労務管理サービス、スタッフ向け申請システムといったマネジメントサイドのシステムとの連携も実現しています。

この外部サービスとの連携には、多様なアプリケーションを統合してワークフローを自動化できる Claris Connect® も利用しています。例えば、FileMaker Pro によるアプリケーション(カスタム App)上で変更したメールアドレスをメールマーケティングサービスに自動反映することによって、当初の「会員情報がアップデートされているシステムとされていないシステムが混在する」という課題を解決しました。また、カスタム App で登録したスタッフ情報を人事労務管理サービスに自動登録できるようにもなっています。これらの連携は Claris Connect を利用することによってとても簡単に実現できるため、開発会社が手を貸すことなく、除野氏自らが早々に実現されていたそうです。

このように、スポーツコネクションでは、FileMaker Pro の API 連携機能と Claris Connect によるクラウドサービス連携機能とを状況に応じて組み合わせて利用することで、柔軟なサービス間の連携が実現されています。

様々なシステムやサービスが連携すると、利便性や効率性が向上するだけでなく、これまでは一緒に閲覧できなかったデータが組み合わせあって、新たな知見が得られるようになりました。現場ではそれをステップに、さらにこのシステムも、このサービスも、と次々に機能強化や連携のアイデアが生まれているそうです。スポーツコネクションでは、そのたびに、個々のアイデアの実現に向けて Claris パートナーと議論を重ね、システムを日々ブラッシュアップし続けています。



株式会社ザ・スポーツコネクション代表取締役 除野 健男 氏

では、株式会社ザ・スポーツコネクションでクラウドサービスのサイロ化解消に大きく寄与した Claris Connect とはどのようなものでしょうか？

まずはクラウドサービスの仕組みについて簡単におさらいした後、様々なクラウドサービスと連携することができる Claris Connect についてご紹介します。



クラウドあれこれ

「クラウドサービス」、もうお使いですか？

ご存知のとおり、クラウドサービスは、ソフトウェアを動かすための基盤（コンピューティングリソース）からソフトウェアそのものまで、必要な分だけをネットワーク経由で利用できるものです。

クラウドサービスが登場するまでは、コンピュータ、ネットワークから必要なソフトウェアまですべてを自社で用意し、それを自分たちで管理していく必要がありました。業務システム、人事システム、メール、共有ドライブなど、必要なものが増えるたびに、そのためのハードウェアやソフトウェアを次々に増やしていっていました。当然、それには限度があって、初期投資や運用工数が工面できないときには人手で頑張るしかありませんでした。

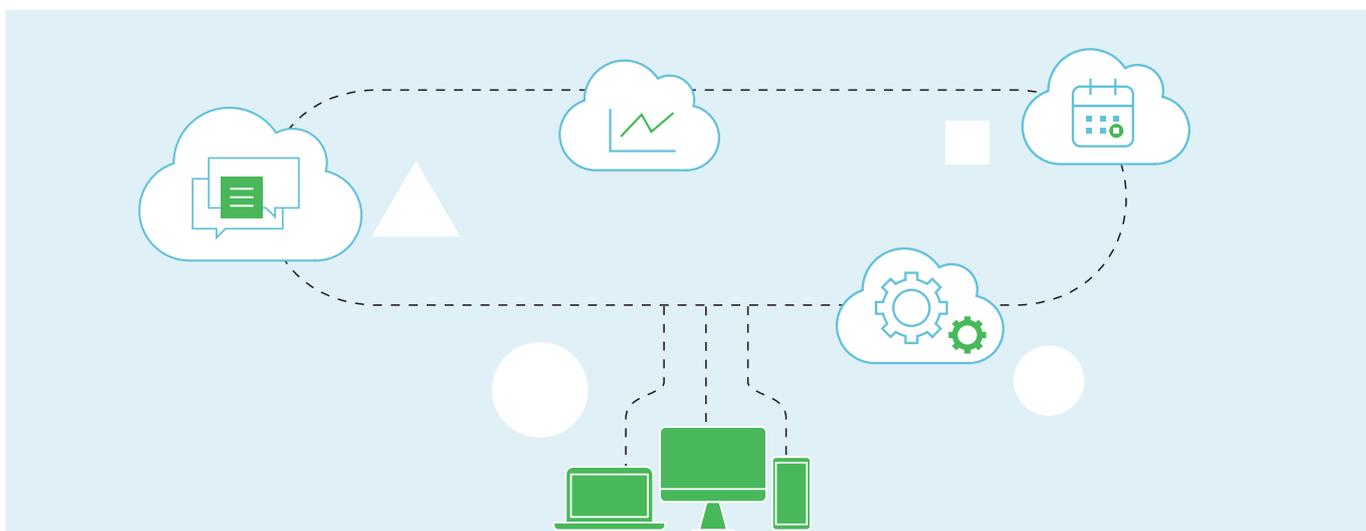
クラウドサービスを使うと、自社で大きな投資をすることなく、インターネットを利用してどこからでもすぐに必要なサービスを利用できます。このことから、2021年時点で既に7割以上の企業がクラウドサービスを利用しています。

クラウドサービスのレベルもさまざまで、インターネット経由で仮想化されたコンピュータ環境そのものを利用できたり、アプリケーションサーバやデータベースなどのプラットフォーム機能を利用できたりもします。前者を「IaaS (Infrastructure as a Service)」、後者を「PaaS (Platform as a Service)」と呼んでいます。

特に近年利用が進んでいるのは、ソフトウェア機能そのものを利用できるサービスです。このようなサービス形態を「SaaS (Software as a Service)」と言います。

SaaSでは、例えば顧客管理や在庫管理といった業務サービスや電子メールサービス、グループウェアといった汎用サービスなどを利用することができます。必要なときに必要なサービスを選択して利用を開始し、不要になったら解約することができるため、導入が簡単です。ソフトウェアはベンダーによって常に最新に保たれるので、ユーザが維持管理する必要はありません。

昨今のリモートワークの普及やDX（デジタル・トランスフォーメーション）の流れともあいまって、今後ますますSaaSの利用拡大が予想されています。



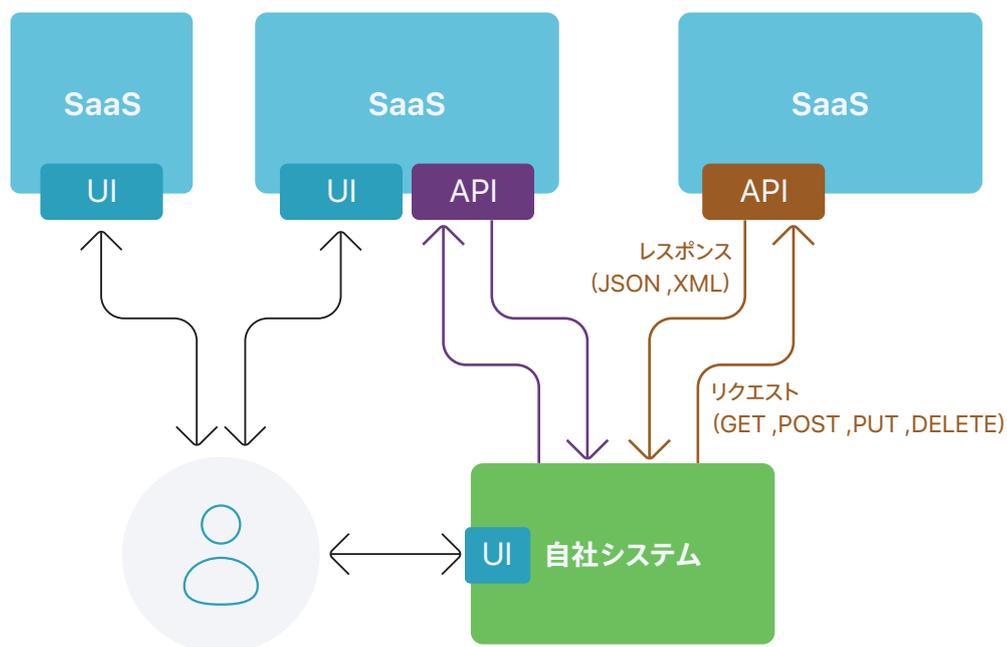
SaaS を API 連携で利用する

SaaS は Web ブラウザあるいは独自のインターフェースからユーザが直接利用することができます。よく利用されている Zoom、Microsoft Teams、Slack、Skype などのコミュニケーションサービスや Microsoft 365 といったオフィスソフト、Dropbox、Box などのストレージサービスなどを思い浮かべるとわかりやすいでしょう。

一方、ソフトウェアから SaaS の機能呼び出して利用することもできます。この仕組みを API (Application Programming Interface) 連携と言います。

API 連携とは、あらかじめ決められたルールに従ってソフトウェア間でデータをやり取りするものです。API 連携を利用することで、例えば自社システムから直接、SaaS で提供されている地図サービスや SMS サービスなどの機能呼び出ししたり、決済サービスとの間でデータを受け渡したりすることができるようになります。

昨今は Web 上の SaaS を利用するための Web API が主流になってきています。Web API にもいくつか種類があり、SaaS 側が提供する種類の Web API を使ってサービスを要求 (リクエスト) します。

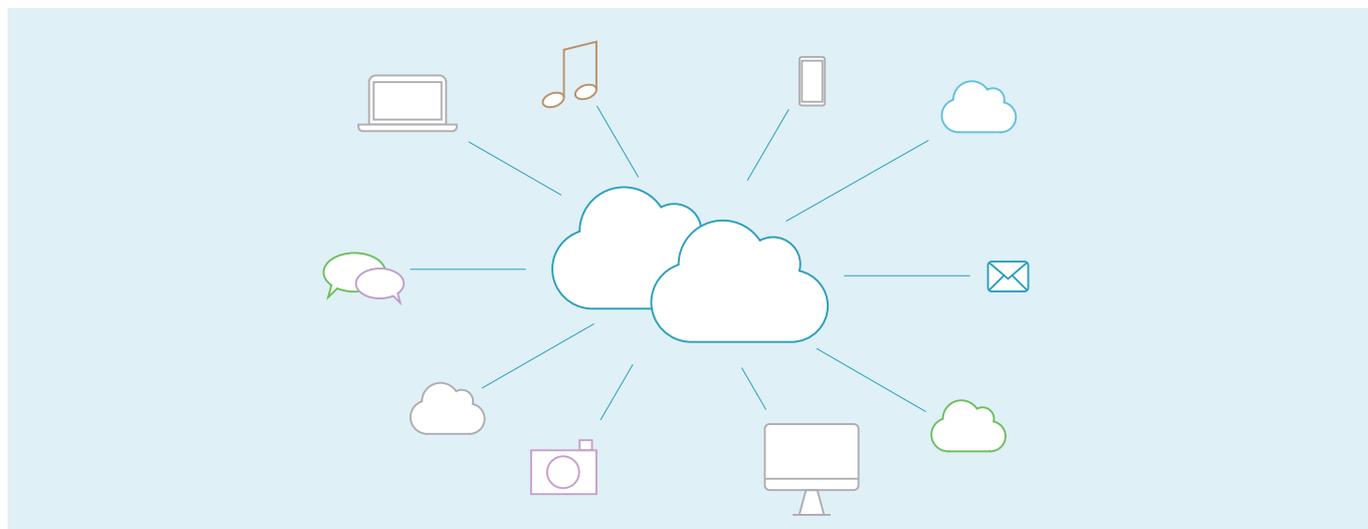


すぐにでも使いたい魅力的なサービスがたくさんある SaaS ですが、SaaS を API 連携で利用する場合には、いくつか注意する点があります。

まず、前提として Web API を利用するための技術的な基礎知識 (HTTP(s)、JSON、XML など) が必要です。また、API の仕様 (提供機能、呼び出し方など) は SaaS ごとに異なるので、SaaS ごとにドキュメントを読んでその仕様を理解する必要があります。

API 連携で利用を開始した後も、SaaS 側で API の仕様変更されることもあるので注意が必要です。

iPaaS ってなに？



クラウドサービスの普及に伴い、さまざまな SaaS が利用できるようになったので、さらに便利な SaaS の使い方も考えられます。例えば、売上管理サービスの SaaS に売上げが入力されると、その内容が在庫管理サービスの SaaS に伝わって最新の在庫情報にアップデートされる、あるいは、一日の終わりに、売上管理サービスの SaaS から当日の売上情報をメールサービスの SaaS に送って、チーム全員に共有する、といった、複数の SaaS を連携する使い方です。

しかし、ここには問題があります。そもそも SaaS は別々のベンダーによって提供されていることが多いので、それぞれの SaaS が取り扱っているデータは別々です。また、SaaS 間で直接データの受け渡しをする仕組みも持っていません。

上記の在庫管理サービスと売上管理サービスの SaaS の例では、それぞれが別の商品リスト（マスターデータ）を使っているため、商品リストに変更があったらユーザ自身がそれぞれのマスターデータをアップデートしなければなりません。また、当日の売上情報をチームで共有したいときも、ユーザが売上管理サービスからデータをダウンロードしてメールに添付してチームに送るという作業をする必要があります。

もう一つ、大きな問題がある場合があります。自社のオンプレミスサーバ上に長年利用してきた業務システムがあり、それに膨大なデータが蓄積されているような場合です。オンプレミスの業務システムと SaaS と直接連携させる手段がなければ、これらのデータを SaaS に移行しなければなりません。これは蓄積されたデータの量によっては、とても大変な作業になります。

このような背景から近年注目されているのが iPaaS (integration Platform as a Service) です。

iPaaS は複数のサービスを組み合わせて利用できるようにするサービスです。iPaaS では連携機能そのものがクラウドサービスとして提供されるので、SaaS ごとの API 仕様の詳細を意識する必要はありません。

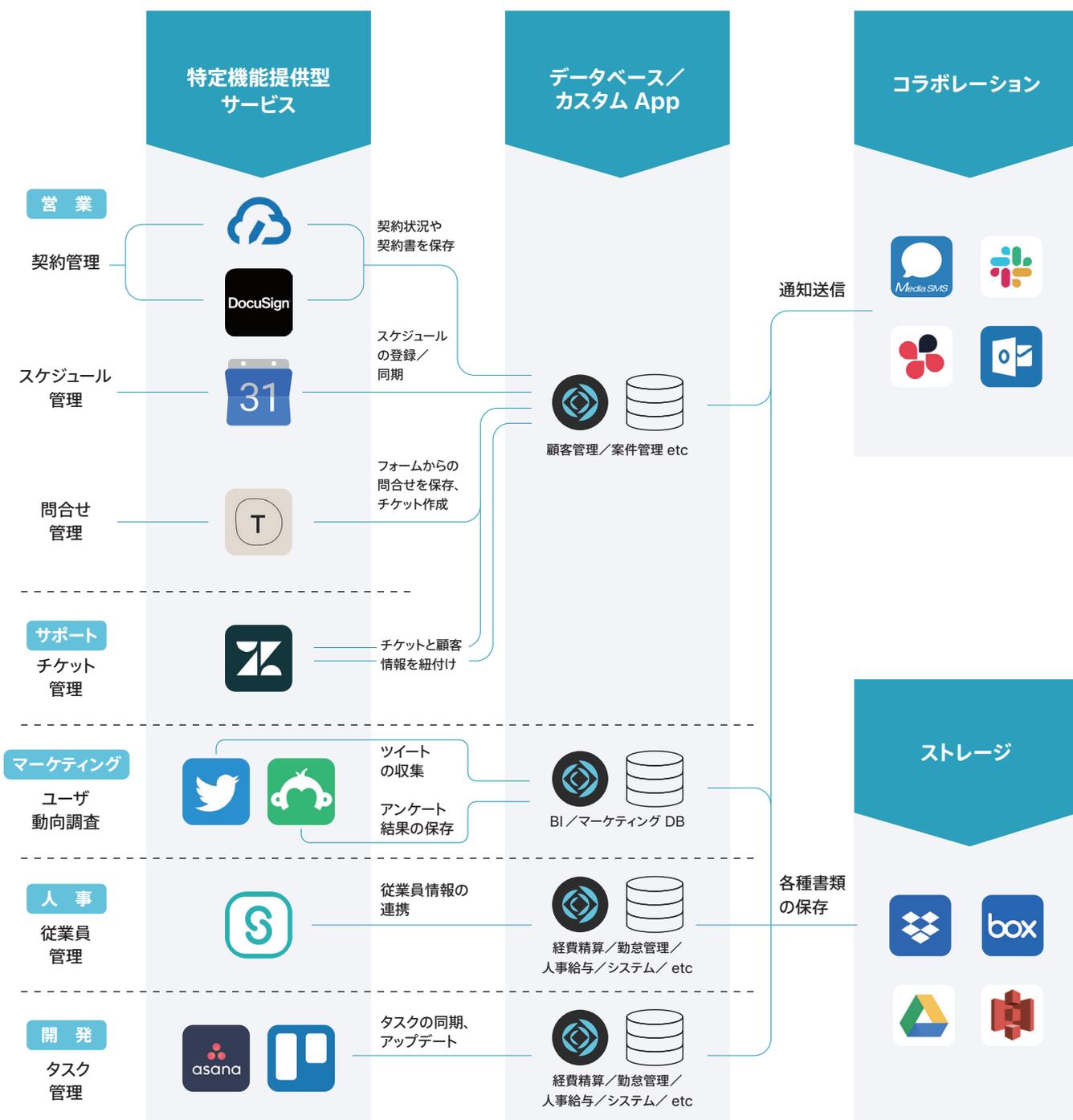
また、SaaS だけでなくオンプレミスのサービスも統合することができます。これによって、業務フローそのものを、途中でユーザの手を介することなくクラウド上で実行することができ、チーム内外との情報共有のスピードが飛躍的に向上します。

さらに、複数の関連するサービスでデータを共有することができるので、すべてのサービスで常に最新のデータを参照できるだけでなく、複数のサービスから取得したデータを統合して分析するなど、さらに進んだ利用も可能です。

iPaaS とローコード開発

iPaaS では、複数の専用サービスを統合する業務フローをローコード開発することができます。他のサービスと連携するためにユーザが複雑なプログラムコードを作成する必要はありません。例えば、サービスのアイコンを画面上にドラッグ & ドロップで配置して他のサービスと繋ぎ、受け渡すデータの対応関係を選択する、といった操作だけで実現することができます。

これによって、従来、時間的、人力的に大きなコストがかかっていたシステム連携を手軽に実現することができます。





Claris Connect

Claris Connect は Claris International Inc. が提供する iPaaS です。2020 年 3 月に登場して以来、数々のワークフローを自動化し、多くの組織の問題解決に役立てられています。

Claris Connect を使うと、さまざまな業務アプリケーションやサービス同士を、ほとんどコーディングすることなく組み合わせ利用することができます。連携可能なサービス（コネクタ）は 2023 年 1 月現在およそ 80 個、会計、クラウドストレージ、マーケティング、メッセージサービス、電子署名、AI など 28 分野にわたって用意されています。組み合わせることができるサービスはクラウドサービス（SaaS）だけでなく、オンプレミスのデータベースも含まれます。もちろん、Claris のローコード開発プラットフォームである FileMaker Pro との連携も可能です。

また、Claris が特に重視するセキュリティ面においても、Claris Connect は Apple の認証プロセスに基づき、情報セキュリティマネジメント (ISO 27001) とクラウドにおけるプライバシーと個人データの保護 (ISO 27018) に関する国際標準化機構 (ISO) の認証を取得しています。これについては、以下の Apple のページでも確認いただけます。

<https://support.apple.com/ja-jp/guide/sccc/sccc4d2c0468b/web>

さらに、顧客データのセキュリティ、可用性、および機密性に関連する内部統制についての SOC (System and Organization Controls) 2[®] Type 2 レポートも取得しています。

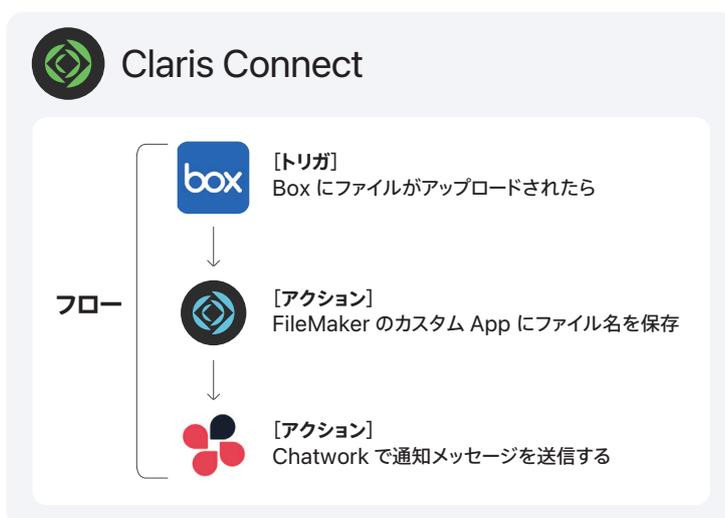
Claris Connect は、これらの認証に裏付けされた強固なセキュリティ基盤の上で稼働しているため、安心してご利用いただけます。

Claris Connect を使う

Claris Connect では、SaaS やオンプレミスのソフトウェアと連携する API の部分を「コネクタ」として提供しています。このコネクタを使って処理の流れをフローとして定義することによって、複数のサービス間でデータを受け渡しながら一連の処理（フロー）を実行していくことができます。

フローは、「トリガ」と呼ばれるフロー実行のきっかけとなるイベント、そしてフローの中で実行させる「アクション」で構成されます。

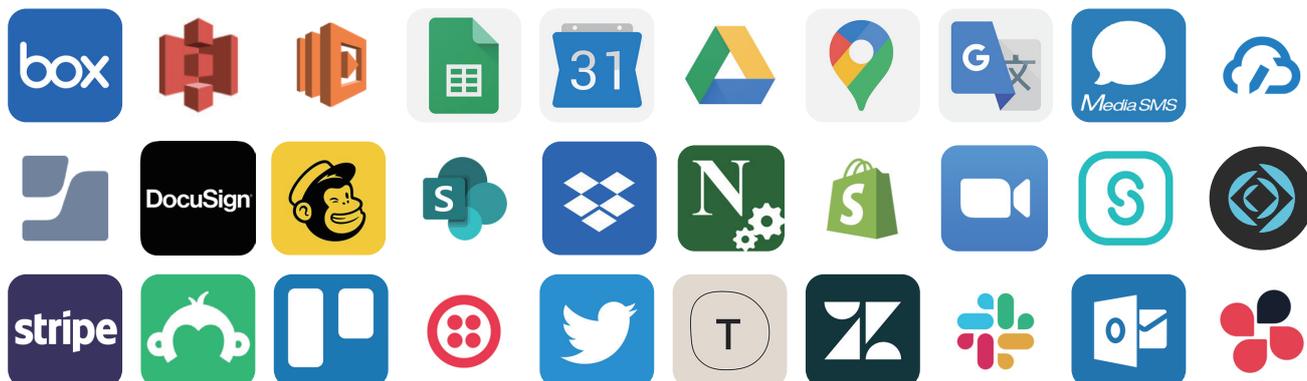
フローの使い方は簡単です。利用したいサービスのコネクタを Claris Connect の画面上で選択し、あらかじめ用意されているトリガやアクションを設定してフローを作成するだけです。詳しくは、Claris Connect のリソースページ²をご覧ください。



Claris Connect のコネクタとフロー

2 Claris Connect リソースページ <https://content.claris.com/claris-connect-resources-ja>

Claris Connect のコネクタ



iPaaS の利用を検討するときのポイントの一つは、連携できるサービスがどのくらいあるかということです。

Claris Connect が提供しているコネクタの中には、AWS S3、Dropbox、Google Drive、Slack、Zoom といった日本でもよく使われているコラボレーションサービスや、Microsoft Outlook などのメールサービス、その他、Twitter や Google Maps といったよく知られたサービスも含まれています。もちろん、Claris のローコードプラットフォームである Claris FileMaker と連携するためのコネクタも用意されているため、FileMaker Cloud と各種サービスとの Web サービス連携も簡単です。

また、Claris Connect ではクラウドサービスだけでなく、オンプレミスの MySQL データベースや Claris FileMaker Server と連携するコネクタも用意されています。

さらに、日本でお馴染みのクラウドサービスに対応したコネクタも続々誕生しています。

例えば、自社の業務アプリケーションで作成した書類（注文書、申込書 etc）をクラウドサインから自動送付したり、SmartHR に登録された従業員情報を別のシステムと同期したり、色々な通知を Chatwork のメッセージとして送信したり、様々な用途で利用することができます。

Claris Connect が提供する最新のコネクタについては、Claris のサイト³を参照してください。

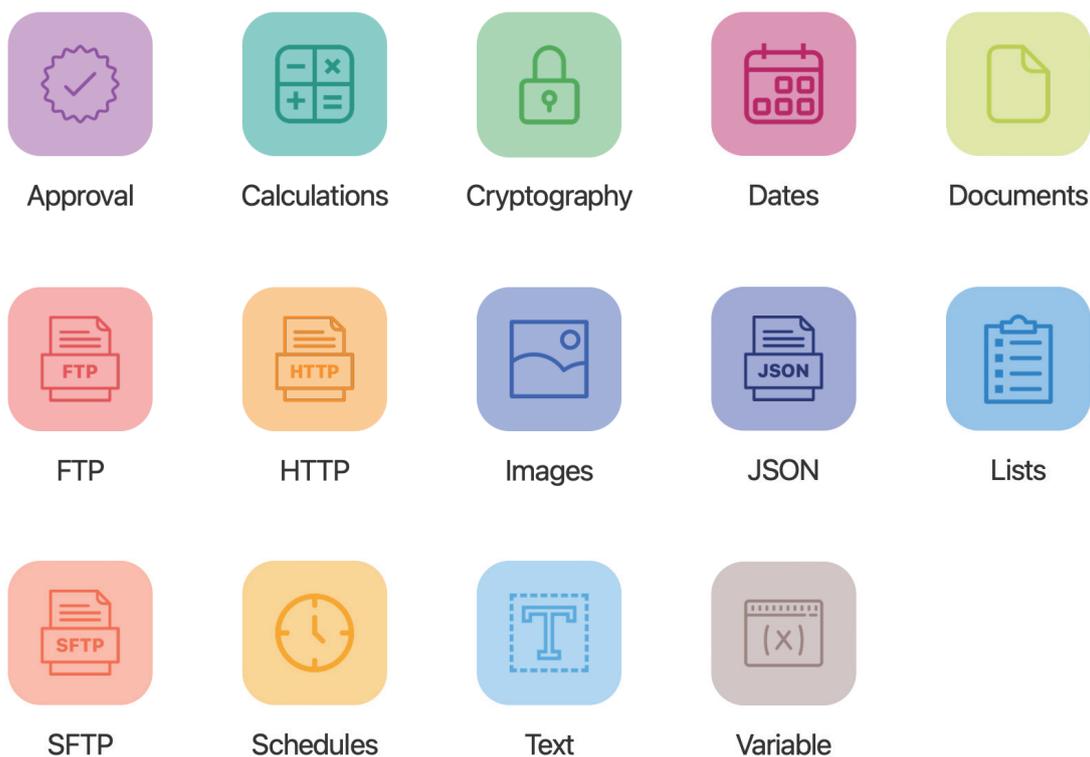
3 Claris Connect App Directory (英語) : <https://www.claris.com/connect/apps/>



Claris Connect のユーティリティ

このように、Claris Connect では様々なサービスに対応したコネクタを利用することにより多様なワークフローを自動化できますが、実はフローの中で利用できるのはコネクタだけではありません。Claris Connect ではユーティリティと呼ばれる、フローに多彩な機能を組み込むためのパーツも用意されています。

Utilities



例えば、トリガとしては、指定した日時や間隔でフローを実行させることができたり（「Schedule」）、アクションでは数値の計算（「Calculations」）のほか、テキストや画像に対する操作を行うためのユーティリティ（「Documents」、「Text」、「Images」など）があります。これらのユーティリティをフローに組み込むことで、単純にサービス同士をつなげるだけでなく、より柔軟かつ高度な自動化フローを作成することができます。

【Clariss Connect ユーティリティ一覧】



Approval

フローの中に承認依頼メールの送信、メール内での承認／拒否ボタン、承認結果をフローに戻す、などの機能を提供します。

※承認メールや画面はすべて英語となります。



Calculations

フローの中で利用される数値データを用いた計算を行います。単純な四則演算から複雑な計算式のほか、平均値の計算やランダム値の取得などが可能です。



Cryptography

任意のテキストに対するハッシュ値や HMAC (いずれも MD-5, SHA-1, SHA-256 に対応) の取得のほか、UUID (Universally Unique Identifier) の生成が可能です。



Dates

現在の日付の取得や、日付を利用した計算、日付フォーマットの変換などを行います。



Documents

ドキュメントや画像からのテキスト抽出や、JSON / XML / CSV 形式のデータの相互変換などの機能を提供します。



FTP

FTP (File Transfer Protocol) を利用し、ファイルやフォルダの操作を行います。



HTTP

フローのトリガとして利用可能な Webhook を受信するための URL 生成や、外部サービスに対する各種 HTTP リクエストの送信などが可能です。



Images

画像のメタデータの取得が可能です。



JSON

テキストを JSON 形式に変換します。



Lists

値のリストに対する各種操作を行います。(リストの統合や最大値、最小値の取得、指定したインデックスの値取得など)



SFTP

FTP に関連する操作を SSH ネットワークプロトコルを通して実行し、セキュアなデータ転送を行います。



Schedules

指定した間隔でフローを実行したり、フローの中で指定した時間だけ一時停止する機能を提供します。



Text

Base 64 でのエンコードとデコードのほか、ランダムテキストの生成、テキストからの URL 抽出など、テキストに対する各種操作を行います。



Variable

フローの中で利用可能な変数の作成や値の更新を行います。

特に、HTTP ユーティリティは、Clariss Connect でコネクタが用意されていないようなアプリケーションやサービスとの連携を可能とし、フローの活用の幅を大きく広げてくれます。一体どういうことなのか、具体的なトリガとアクションを確認してみましょう。

【HTTP ユーティリティのトリガ】

HTTP ユーティリティで利用可能なトリガは [Incoming HTTP Request] の 1 つだけです。これは、外部のアプリケーションやサービスから指定した URL に対して送られてくるデータ（一般的には Webhook と呼ばれています）を受け取る機能です。クラウドサービスの中には、何らかのイベント（新たにデータが登録されたなど）をきっかけに Webhook を送信するような機能を持ったものが多くあります。Claris Connect では Webhook の送信先となる URL を生成できるので、その URL を対象のサービスに設定することで、指定したタイミングで必要なデータを外部アプリケーションやサービスから Claris Connect に送信してもらい、それをトリガとしてフローを実行できる、というわけです。コネクタの機能を利用するわけではないため、Webhook にさえ対応していれば、コネクタが存在しないサービスでもトリガとして利用できることとなります。

【HTTP ユーティリティのアクション】

HTTP ユーティリティでは以下のアクションが利用可能です。

- HTTP GET request
- HTTP POST request
- HTTP PATCH request
- HTTP PUT request
- Reply with JSON data

この中でも、特に [HTTP ~] のアクションでは、Claris Connect から任意のエンドポイントに対して GET/POST/PATCH/PUT の各リクエストを実行することができます。もうすこし平たく言うと、Claris Connect から外部サービスの API を実行することができる、ということになります。HTTP リクエストや対象サービスの API に関する仕様などを理解している必要がありますが、こちらも前述のトリガ同様コネクタがないアプリケーションやサービスに対して API が実行できることとなります。

以上のように、Claris Connect ではコネクタと HTTP ユーティリティを活用することであらゆるアプリケーション、サービスを柔軟に組み合わせて、つなげることができるのです。

サービスを繋げてみよう

冒頭のチャートでは、さまざまなサービスを連携することで、業務をさらに効率化できる可能性が見えていました。Clarix Connect を利用することによって、これらのサービスを簡単に連携させて業務フローを自動化することができます。

1. フォーム情報の自動保存と関係者への通知					
 <p>Typeform FileMaker Chatwork</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #808080; color: white; text-align: center;">Before</td> <td>Typeform (Web フォーム) に入力された情報を担当者が定期的にダウンロードして、FileMaker カスタム App に手でインポート。同時に Chatwork で他の担当者にメッセージ送信。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #008000; color: white; text-align: center;">After</td> <td>Typeform (Web フォーム) に入力された情報が自動的に FileMaker カスタム App に送信されて保存完了。同時に Clarix Connect が Chatwork で担当者全員にメッセージ送信。</td> </tr> </table>	Before	Typeform (Web フォーム) に入力された情報を担当者が定期的にダウンロードして、FileMaker カスタム App に手でインポート。同時に Chatwork で他の担当者にメッセージ送信。	After	Typeform (Web フォーム) に入力された情報が自動的に FileMaker カスタム App に送信されて保存完了。同時に Clarix Connect が Chatwork で担当者全員にメッセージ送信。
Before	Typeform (Web フォーム) に入力された情報を担当者が定期的にダウンロードして、FileMaker カスタム App に手でインポート。同時に Chatwork で他の担当者にメッセージ送信。				
After	Typeform (Web フォーム) に入力された情報が自動的に FileMaker カスタム App に送信されて保存完了。同時に Clarix Connect が Chatwork で担当者全員にメッセージ送信。				
2. 受信したメールの本文と添付ファイルを自動保存して全員で共有					
 <p>Mailparser Box FileMaker</p> <p>Text Documents</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #808080; color: white; text-align: center;">Before</td> <td>受信したメールから担当者が本文を FileMaker カスタム App にコピー&ペースト、添付ファイルがあったら box に手作業でアップロード。共有忘れも？</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #008000; color: white; text-align: center;">After</td> <td>受信したメールから Mailparser で本文と添付ファイルを抽出し、本文を FileMaker カスタム App に、添付ファイルを box に自動登録。Text ユーティリティを使って本文中の URL を取り出したり、Documents ユーティリティを使って添付イメージからテキスト抽出してキーワードとして登録。</td> </tr> </table>	Before	受信したメールから担当者が本文を FileMaker カスタム App にコピー&ペースト、添付ファイルがあったら box に手作業でアップロード。共有忘れも？	After	受信したメールから Mailparser で本文と添付ファイルを抽出し、本文を FileMaker カスタム App に、添付ファイルを box に自動登録。Text ユーティリティを使って本文中の URL を取り出したり、Documents ユーティリティを使って添付イメージからテキスト抽出してキーワードとして登録。
Before	受信したメールから担当者が本文を FileMaker カスタム App にコピー&ペースト、添付ファイルがあったら box に手作業でアップロード。共有忘れも？				
After	受信したメールから Mailparser で本文と添付ファイルを抽出し、本文を FileMaker カスタム App に、添付ファイルを box に自動登録。Text ユーティリティを使って本文中の URL を取り出したり、Documents ユーティリティを使って添付イメージからテキスト抽出してキーワードとして登録。				
3. アンケート結果の自動保存					
 <p>Schedules SurveyMonkey Dropbox</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #808080; color: white; text-align: center;">Before</td> <td>SurveyMonkey で収集したアンケート結果を担当者が定期的に PDF 形式あるいは CSV 形式を選択して自分のコンピュータにダウンロードし、その後 Dropbox にアップロード。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #008000; color: white; text-align: center;">After</td> <td>SurveyMonkey で収集したアンケート結果を Schedules ユーティリティを使って定期的に自動収集し、あらかじめ設定しておいたファイル形式で Dropbox へ直接保存。</td> </tr> </table>	Before	SurveyMonkey で収集したアンケート結果を担当者が定期的に PDF 形式あるいは CSV 形式を選択して自分のコンピュータにダウンロードし、その後 Dropbox にアップロード。	After	SurveyMonkey で収集したアンケート結果を Schedules ユーティリティを使って定期的に自動収集し、あらかじめ設定しておいたファイル形式で Dropbox へ直接保存。
Before	SurveyMonkey で収集したアンケート結果を担当者が定期的に PDF 形式あるいは CSV 形式を選択して自分のコンピュータにダウンロードし、その後 Dropbox にアップロード。				
After	SurveyMonkey で収集したアンケート結果を Schedules ユーティリティを使って定期的に自動収集し、あらかじめ設定しておいたファイル形式で Dropbox へ直接保存。				
4. SNS 情報の自動収集					
 <p>Schedules Twitter FileMaker</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #808080; color: white; text-align: center;">Before</td> <td>Twitter で特定のハッシュタグを含む投稿を担当者が定期的に検索し、ダウンロードして所定の形式に整えてから、FileMaker カスタム App にインポート。バズっていても、担当者がすぐには対応できないかも？</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #008000; color: white; text-align: center;">After</td> <td>Twitter への投稿を Schedules ユーティリティを使って定期的に自動収集し、FileMaker カスタム App へ自動保存。収集スケジュールの設定を変えて、臨機応変、随時収集することも可能。</td> </tr> </table>	Before	Twitter で特定のハッシュタグを含む投稿を担当者が定期的に検索し、ダウンロードして所定の形式に整えてから、FileMaker カスタム App にインポート。バズっていても、担当者がすぐには対応できないかも？	After	Twitter への投稿を Schedules ユーティリティを使って定期的に自動収集し、FileMaker カスタム App へ自動保存。収集スケジュールの設定を変えて、臨機応変、随時収集することも可能。
Before	Twitter で特定のハッシュタグを含む投稿を担当者が定期的に検索し、ダウンロードして所定の形式に整えてから、FileMaker カスタム App にインポート。バズっていても、担当者がすぐには対応できないかも？				
After	Twitter への投稿を Schedules ユーティリティを使って定期的に自動収集し、FileMaker カスタム App へ自動保存。収集スケジュールの設定を変えて、臨機応変、随時収集することも可能。				
5. 契約書類の自動保存と関係者への通知					
 <p>DocuSign Box Media SMS</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #808080; color: white; text-align: center;">Before</td> <td>DocuSign で契約書類に署名されたかどうかを担当者が随時確認。署名されていた書類を Box に保存し、担当者へ SMS で通知。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #008000; color: white; text-align: center;">After</td> <td>DocuSign で契約書類に署名されると、書類が自動的に Box に保存され、同時に担当者全員へメディア SMS で通知。</td> </tr> </table>	Before	DocuSign で契約書類に署名されたかどうかを担当者が随時確認。署名されていた書類を Box に保存し、担当者へ SMS で通知。	After	DocuSign で契約書類に署名されると、書類が自動的に Box に保存され、同時に担当者全員へメディア SMS で通知。
Before	DocuSign で契約書類に署名されたかどうかを担当者が随時確認。署名されていた書類を Box に保存し、担当者へ SMS で通知。				
After	DocuSign で契約書類に署名されると、書類が自動的に Box に保存され、同時に担当者全員へメディア SMS で通知。				

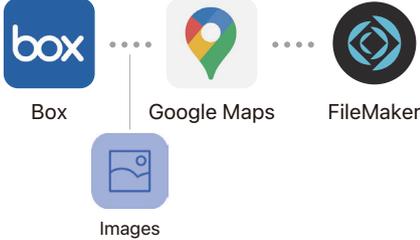
6. 顧客訪問時の最適な巡回経路を作成

 <p>NAVITIME FileMaker</p>	Before	営業担当者が、その日の訪問先への行き方を1件ずつ調べ、巡回経路や訪問予定時刻を決定する。当日になって急に訪問先が増えたり減ったりすると、全部やり直しになることも？
	After	NAVITIME を使って訪問先と訪問順序から最適なルートプランニングを即座に決定。営業情報を管理している FileMaker カスタム App にルート地図を表示させることも可能。

7. 従業員情報を複数システム間で同期

 <p>SmartHR FileMaker</p>	Before	人事担当者が SmartHR に従業員情報を追加もしくは更新し、定期的に更新情報を FileMaker カスタム App 担当者に連絡。連絡を受けた担当者が更新情報をカスタム App に入力。定期採用時や人事異動の時期には2つのシステムのマスターデータ（従業員情報）が同期するまでに時間がかかる時も？
	After	SmartHR に従業員情報が追加もしくは更新されると、即座に FileMaker カスタム App の情報も自動更新。大量の更新があってもほぼリアルタイムで反映可能なので、2つのシステムのマスターデータは常に同期している。

8. フィールド調査で撮影した写真情報を自動登録

 <p>Box Google Maps FileMaker</p> <p>Images</p>	Before	フィールド調査で写真を撮影したときに位置情報（住所情報）を手で記録、あるいはGPS情報を取得しておいて後で取得。写真データをBoxにアップロードし、調査記録用カスタム App に写真情報と共に住所を手動で入力して調査記録を作成。
	After	フィールド調査の現場でスマートフォンで撮影した写真をBoxにアップロードすると、Images ユーティリティを使って写真のメタデータから位置情報を取得し、Google Maps から住所情報を取得。写真のメタデータと共に住所情報を調査記録用カスタム App に自動登録して調査記録を作成。

9. 社内システムとクラウドサービスのデータを自動同期

 <p>HTTP Mailchimp</p>	Before	営業部でメール配信サービス（Mailchimp）を利用する際に、基幹システムから毎回手動で顧客リストをエクスポートし、メール配信サービスにインポートして同期。
	After	基幹システムに新たに顧客リストが登録された際に、HTTP ユーティリティの Webhook 機能を使って顧客データを Mailchimp に送信し、自動的に登録（同期）。

この他にも、たくさんのサービスを Claris Connect により連携させることで様々なシーンで効率化の実現が可能です。便利なクラウドサービスをより効率的に利用するため、自動化の可能性を開拓しましょう！

Claris 法人営業窓口

新規購入：0120-983-878 / 03-4345-3333

受付時間：10:00 - 17:30（当社指定休日・祝日を除く月曜日から金曜日）

お問い合わせフォーム <https://www.claris.com/ja/asksales/>

Claris カスタマサポート

無償サポート：03-4345-3366 / 050-3628-8844

受付時間：10:00 - 17:30（当社指定休日・祝日を除く月曜日から金曜日）

お問い合わせフォーム <https://www.claris.com/ja/ask/>



© 2023 Claris International Inc. All rights reserved.
 Claris、クラリス、Claris Connect、Claris ロゴ、FileMaker、ファイルメーカー、FileMaker Cloud、FileMaker Go、FileMaker Pro、FileMaker Server、FileMaker WebDirect およびファイルフォルダのロゴは、米国およびその他の国における Claris International Inc. の登録商標です。Claris Go、Claris Pro、Claris Server、Claris Studio、クラリススタジオ および Claris WebDirect は、Claris International Inc. の商標です。その他のすべての商標は、該当する所有者の財産です。